



SAFE



WARNING

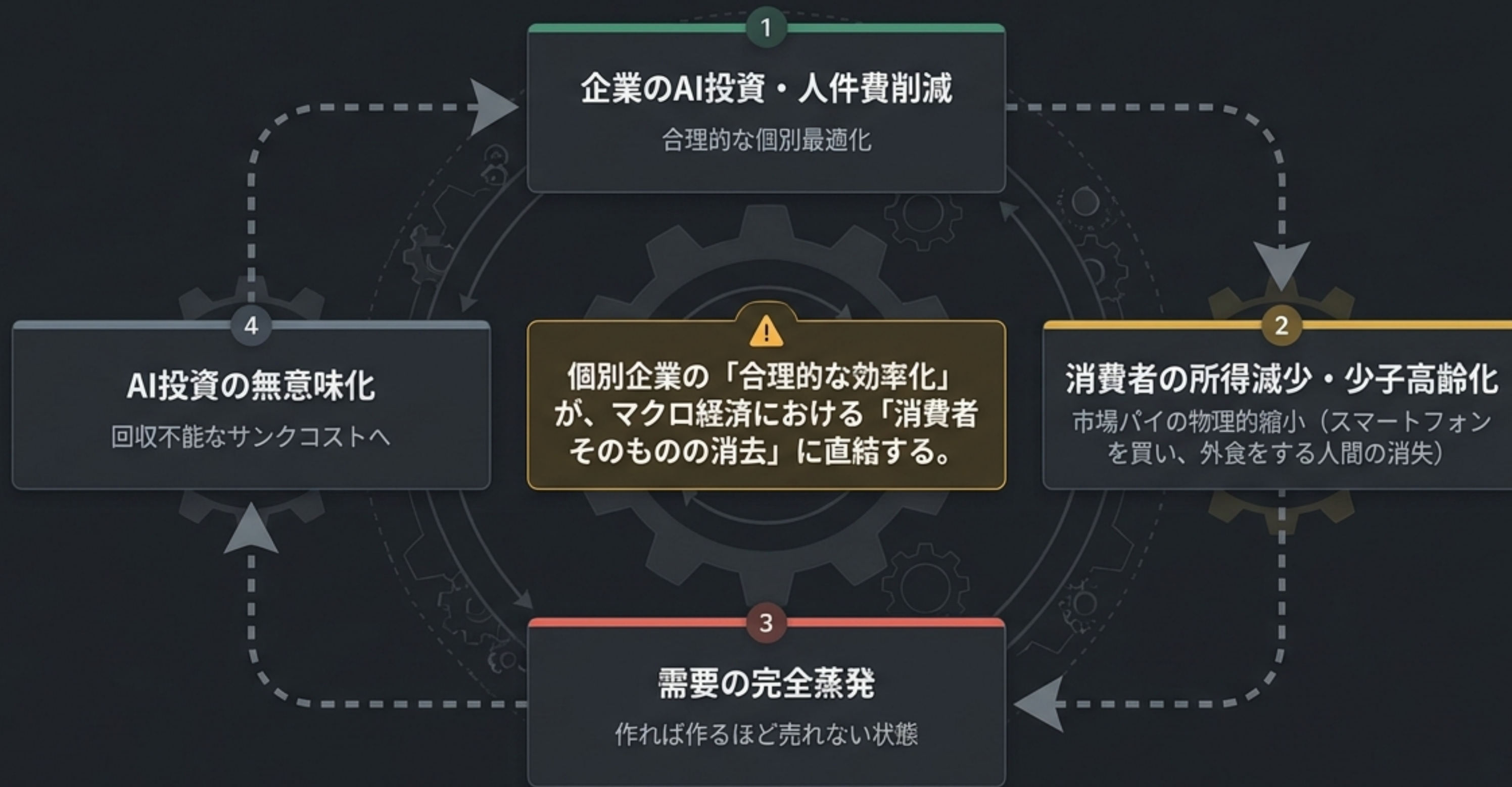


CRISIS

AIが生産し、誰も消費しない「需要蒸発のパラドックス」を解き明かす

The Strategic Dashboard: System Initialized. Analyzing macroeconomic anomalies and AI adoption impacts.

24時間稼働するAIが「作れば作るほど売れない」市場構造を生み出す



労働代替率49%など、5つの実データから需要消失の現在地を把握する

労働代替率

49%

(野村総研・オックスフォード大共同研究/2015年)。日本の601種類の職業のうち、技術的に代替可能な割合。

2050年労働需給

180万人余剰 / 61万人不足

(第一生命経済研究所)。
一般事務等で余剰を生む一方、介護職は不足。
※フィジカルAI普及で全体1,340万人余剰推計も。

住宅価格

18.6倍

(東京カンテイ/2024年)。
年収600万世帯の新築マンション年収倍率。
適正水準は5倍、港区は36.0倍。

労働分配率

53.9%

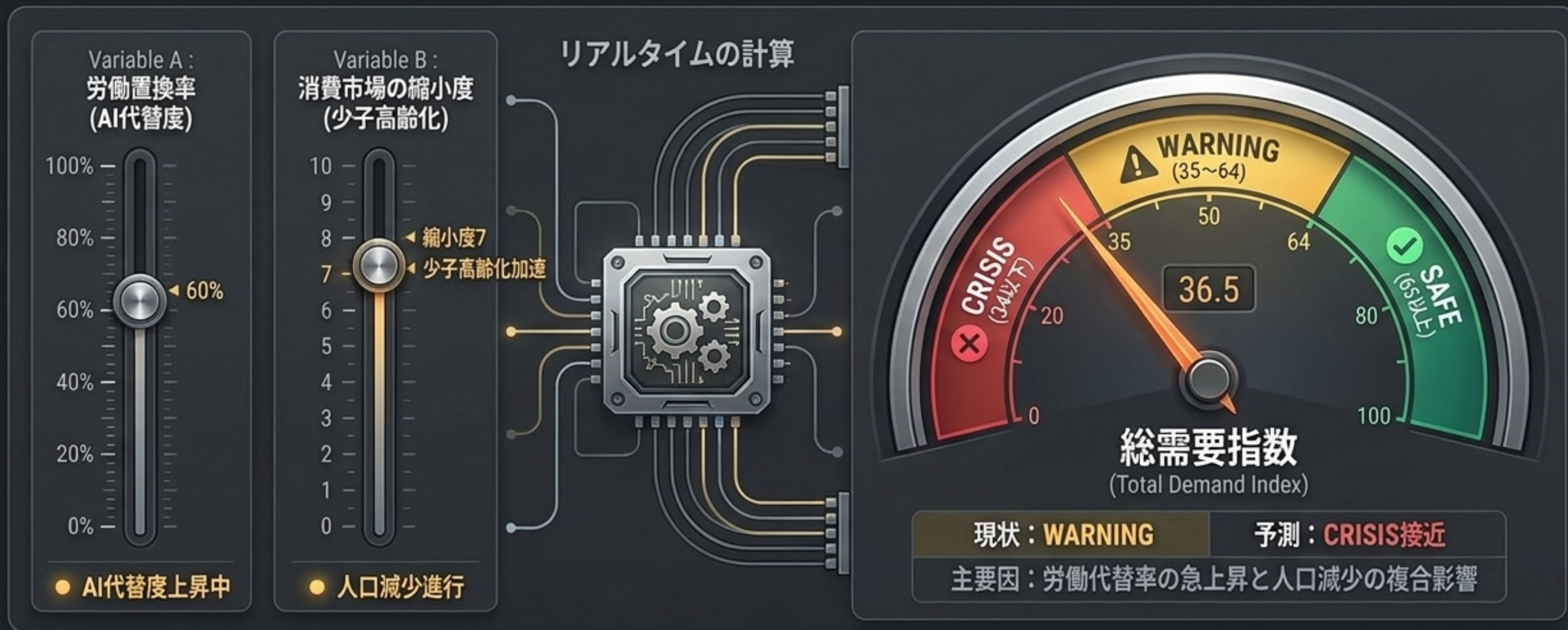
51年ぶりの低水準。
一方で企業の内部留保は過去最高の636兆円に到達。

少子化対策

0.72

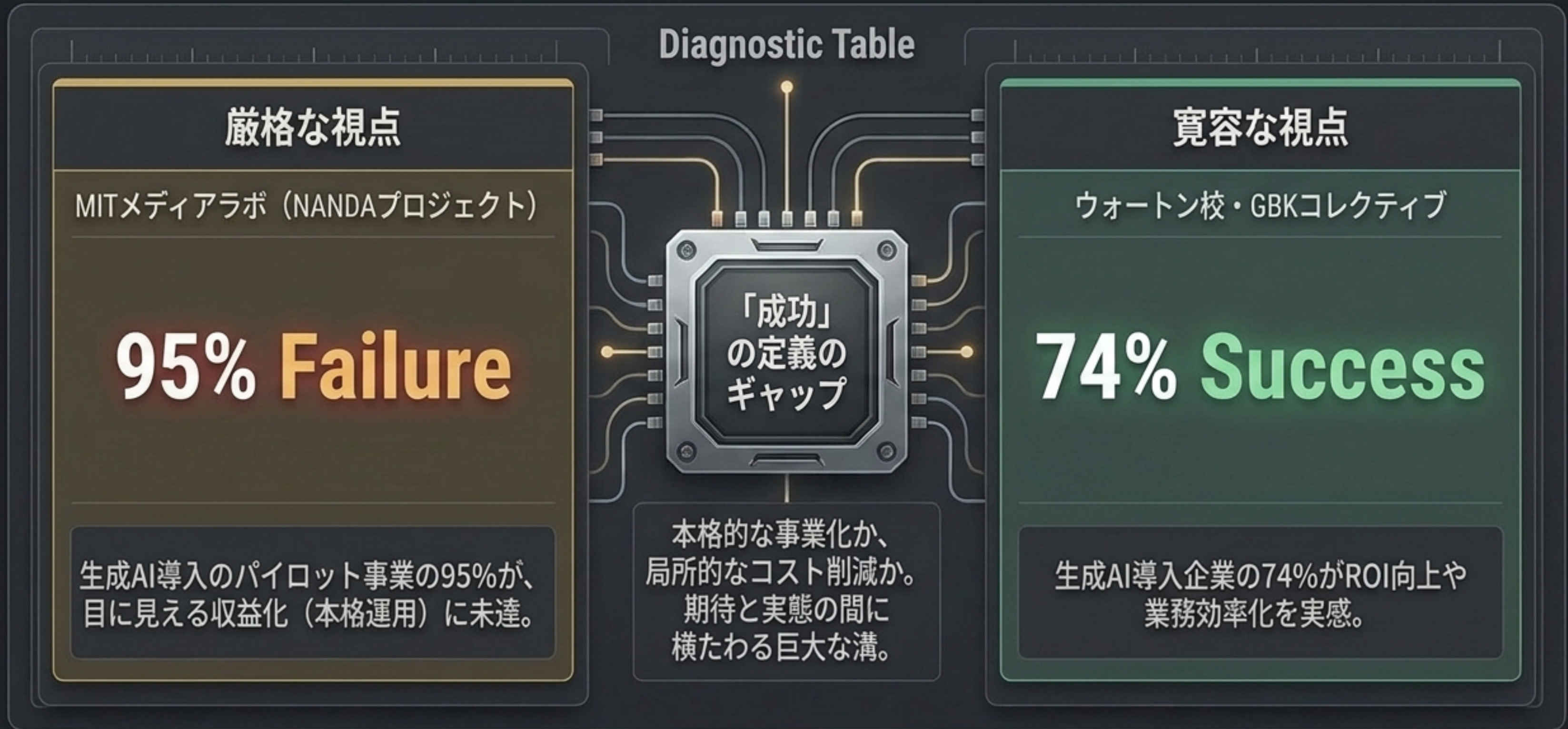
(韓国の2023年出生率)。
2006年以降21兆円投下も下落。
日本は2028年度までに3.6兆円追加予定。

2つの変数（労働置換×市場縮小）を動かし、総需要指数を3段階で判定する



単なる数式だが、2つの力が同時に強まることで、需要指数がドミノ倒しのように急激に落ち込む構造。

95%の失敗と74%の成功が混在する、AI投資のリアルな成果を比較する



人口減少社会において、AIを「需要破壊」ではなく「社会維持装置」として再定義する

従来の視点

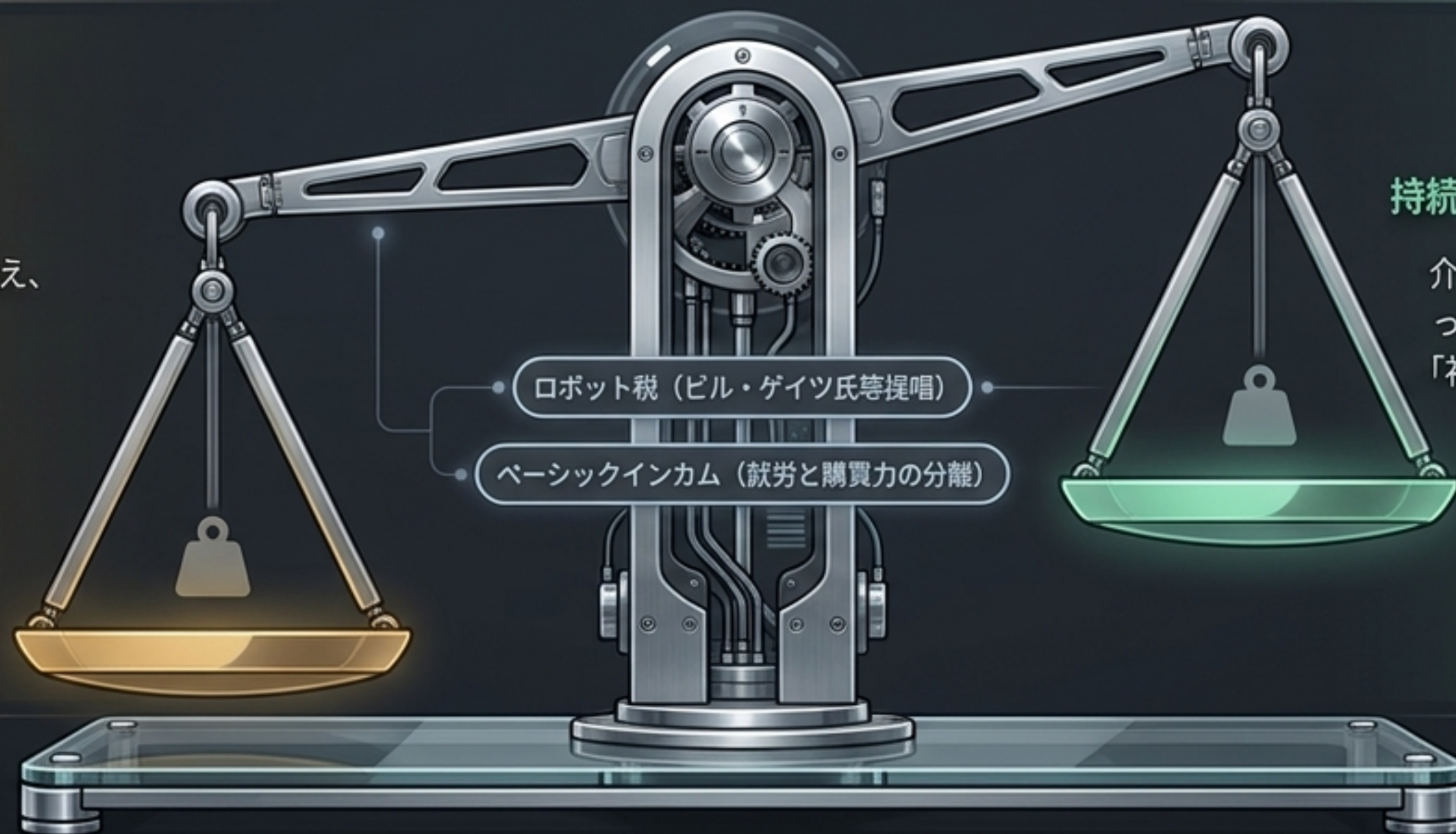
需要蒸発シナリオ

労働が奪われ、消費者が消え、市場が崩壊する。

新たな視点

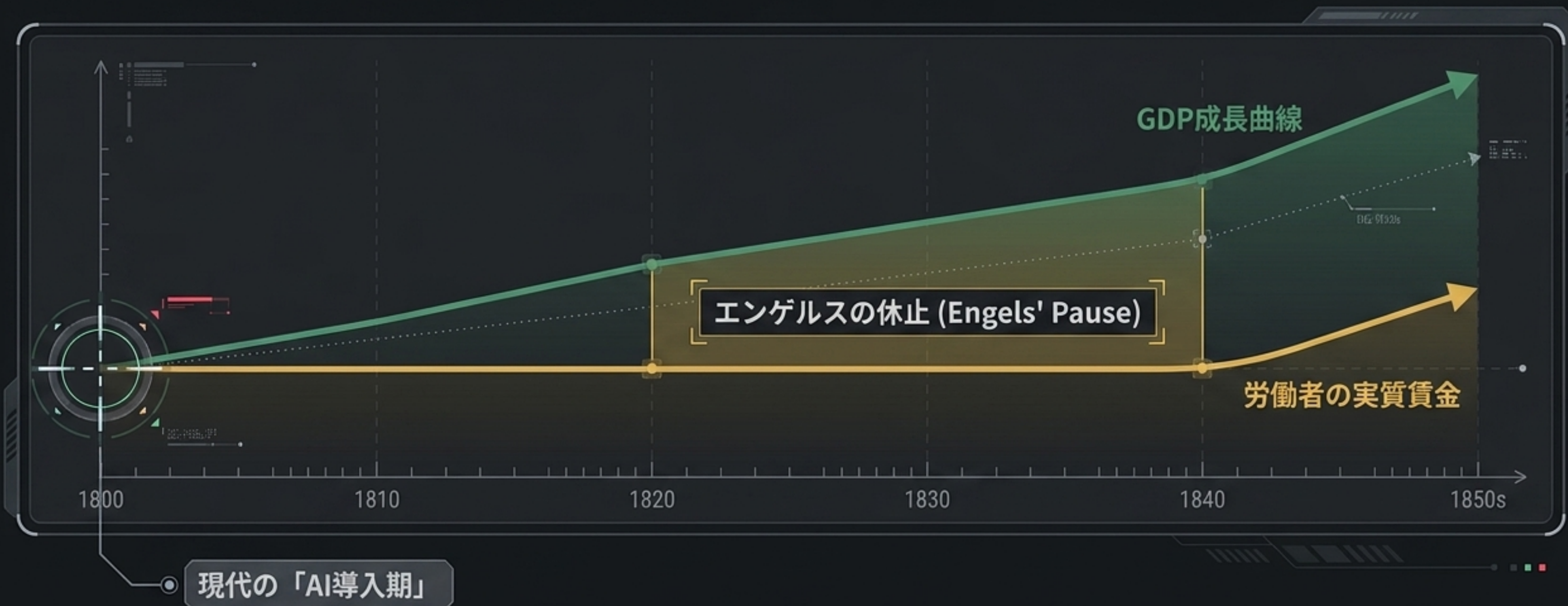
持続可能な縮小社会シナリオ

介護・物流・インフラなど、放っておけば崩壊する社会をAIが「社会維持装置」として支える。



消費が縮むスピードより、労働者が減るスピードが速ければ、AIは雇用破壊者ではなくインフラの救世主となる。

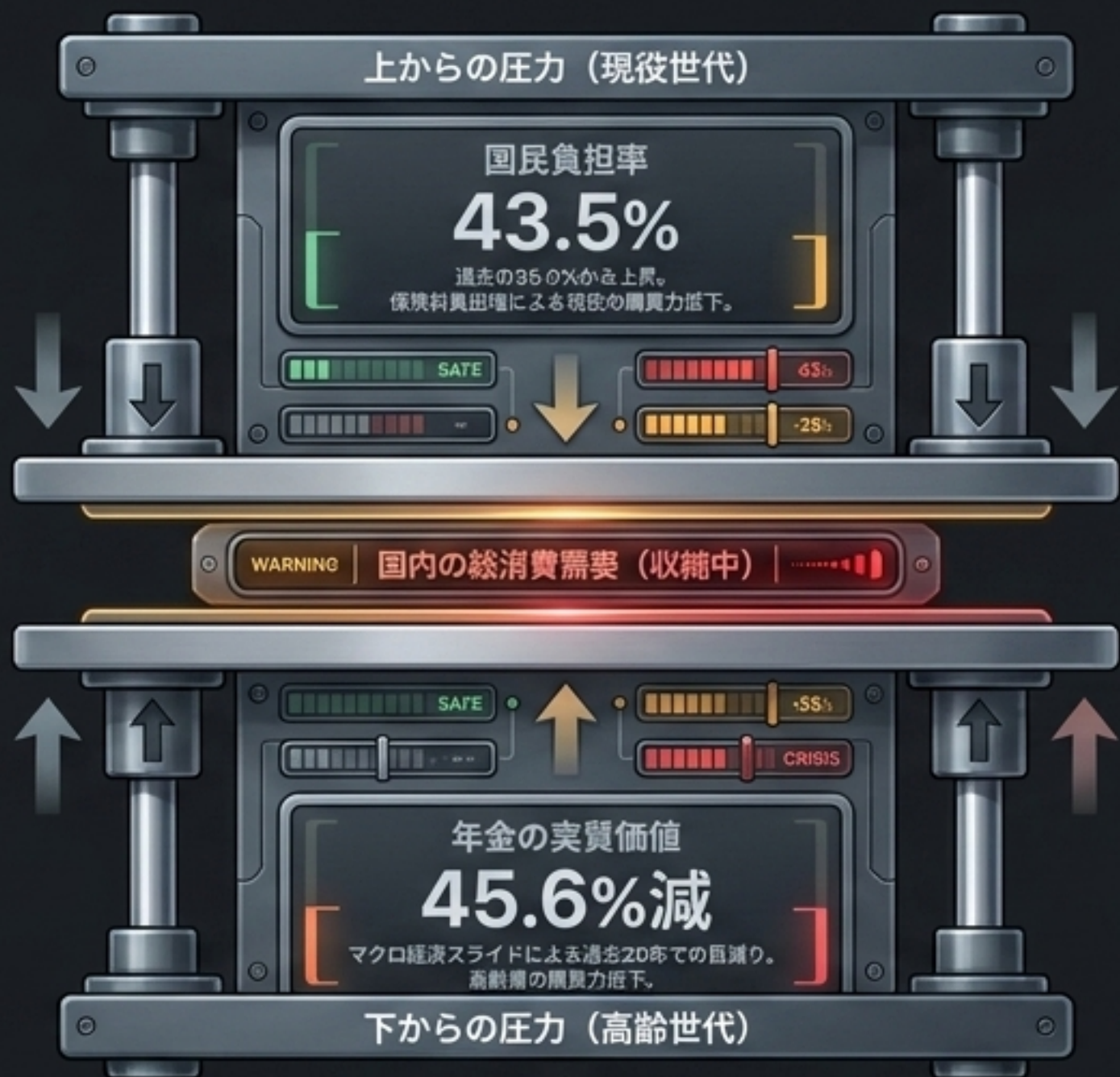
50年間の賃金停滞を示す「エンゲルスの休止」から、 技術移行期の痛みを予測する



● 現代の「AI導入期」

我々は今、この50年間の入り口にいるのではないか？

負担率43.5%への上昇と年金価値45.6%減がもたらす、見えない需要蒸発を直視する



AIの台頭とは別経路で、制度を持続可能にするための合理的な政策判断自体が、静かな「需要蒸発」を引き起こす平行構造。

用意された単一の予測を捨て、データに基づく3つの未来シナリオから自ら選択する

ACCESS THE SIMULATOR

(TK MAX 金融・経済レポート)

本コンテンツは独立した研究・分析目的であり、投資助言や特定の政策（ロボット税・BI等）を推奨・判断するものではありません。
シミュレーターは2変数の機械的モデルであり、未来を保証するものではありません。
本資料はNotebookLM等による自動生成を活用し、中立的に構造を可視化しています。